

2010年6月16日

各 位

双日株式会社

双日、サウジアラビアのIPP事業「リヤド PP11」について
サウジ電力会社と長期売電契約に調印

双日株式会社、世界大手のガス・電力会社であるスエズグループ（Kahrabel GDF SUEZ Group）、サウジアラビアの大手財閥であるアル・ジョマイ（Al Jomaih Holding Company）のコンソーシアムは、サウジアラビアのIPP（独立系発電事業者）事業「リヤド PP11」について、6月15日（リヤド現地時間）にサウジ電力会社（Saudi Electricity Company）と20年間の長期売電契約に調印しました。

「リヤド PP11」は、サウジアラビアのリヤド市西 125km の地区に出力 1720MW のガス焼きコンバインドサイクル（複合発電）発電所を建設するプロジェクトです。総事業費は約 2000 億円で、事業会社（本社：リヤド市、Dhuruma Electricity Company / 双日 15%、スエズ 20%、アル・ジョマイ 15%、サウジ電力会社 50%）が、BOO（建設・所有・運営）方式で発電所の建設および運営・管理を行います。2010年6月に着工し、2013年5月に商業運転を開始する予定です。



発電所の EPC（設計・調達・建設）は、韓国の現代重工業が担当します。また、発電設備の中核機器であるガスタービンは米ゼネラル・エレクトリック社製を採用します。ガスタービンと蒸気タービンによるコンバインドサイクル方式で、環境負荷が低く、燃焼効率に優れた発電を行います。サウジアラビアでは産業の発展とともに、電力需要が拡大していますが、環境への配慮から、ガス焼きコンバインドサイクル発電が注目されています。

双日は、長期安定収益が見込まれる IPP 事業を重点分野と位置付けて、拡大・強化を図っています。「リヤド PP11」は双日にとって中東初の IPP 事業への参画ですが、オマーンでもスエズグループと共同で IPP 事業「バルカ 3」「ソハール 2」の事業権を取得し、売電契約締結に向け取り組んでいます。双日は、今後も中東の湾岸諸国や東南アジアなどを中心に IPP 事業に注力していきます。

【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社 広報部 03 - 5520 - 3188